

I. 2014年度活動(2014年6月21日～2015年6月20日)報告

I-0-1 活動報告

本学会では、本年度も個々の会員によって、あるいは共同活動によって、環境問題の幅広い分野にわたる研究や問題解決の取り組みが行われた。会誌『人間と環境』も予定取り3回が出版された。この数年紙数抑制の傾向がみられたが、読みごたえのある会誌発行は学会活動の要であり、費用の問題も当面解消の見込みが立ったので、内容充実に力を入れてきた。研究発表会の成果を会誌に反映させる工夫など、編集部の取り組みが継続的に行われようになり、会誌充実の方向が見え出した。

共同研究では7つのプロジェクトやワーキンググループによって、昨年度に引き続いて活動が行われた。また若手活性化プロジェクトの活動も活発に展開され、研究発表会や交流会が行われた。若手活性化プロジェクトのように、共同研究プロジェクトやワーキンググループの活動についても会誌への報告をしてもらうなどして学会活性化を図る点については、形が見えるまでには進められなかった。

学会業務の運営に関しては、前年2014年度と同じ執行体制、事務局体制で遂行され、3回の常任幹事会と2回の幹事会を開催した。財政については、歳入面では、会費納入率が、前年度と概ね同じ水準が維持され、歳出面では、会誌の増頁もこの間の印刷費削減努力で、大きな負担とならずに済ませられ、会議ではスカイプ活用による交通費削減などによって出費が抑えられ、全体として健全な状態が保たれている。

なお今年度で任期満了となる会長及び幹事について、選挙管理委員会によって選挙が実施され、新たな会長、幹事の選出が行われた。

I-1 会員の移動(2015年5月30日現在)

入会者数, 29名(一般20名, 学生9名); 退会者数, 36名; シニア会員への区分変更, 2名
会員数, 431名(一般会員, 306名; シニア会員, 44名; 学生会員, 39名; 購読会員, 42名)

I-2 通常総会

2014年6月21日に東京農工大学府中キャンパスで開催した。

I-3 幹事会および常任幹事会を以下のように開催した。

2014年9月20日	第1回常任幹事会	京都市(気候ネットワーク事務所)
12月13日	第1回幹事会	京都市(龍谷大学深草キャンパス)
2015年4月5日	第2回常任幹事会	京都市(気候ネットワーク事務所)
5月30日	第3回常任幹事会	京都市(気候ネットワーク事務所)
6月20日	第2回幹事会	京都市(龍谷大学深草キャンパス)

I-4 研究発表会

第40回研究発表会を2014年6月21日～22日に東京農工大学府中キャンパスで開催した。

第6回若手研究者発表大会を2015年3月9日に大阪市立大学文化交流センター(梅田キャンパス)で開催した。

I-5 シンポジウムおよび現地見学会等

東京農工大学府中キャンパス(府中市)において、6月21日にシンポジウム第I部「再生可能エネルギーと地域発展」、6月22日に第II部「環境研究の最先端」を開催した。

I-6 会誌等の発行

日本環境学会会誌『人間と環境』40巻2号, 40巻3号, 41巻1号を刊行した。

I-7 会員への情報伝達

配信用メーリングリスト(info)で10通, 研究発表会のプログラムは郵送を含め全会員に周知した。

I-8 国内外への環境問題への取り組み

I-8-1 ワーキンググループおよびプロジェクト

廃棄物問題WG

土壌汚染WG

温室効果ガス排出実態分析委員会

東京都日の出町広域処分場周辺環境調査委員会

福島第一原発事故による放射能汚染問題研究委員会

再生可能エネルギー研究プロジェクト

若手研究活性化プロジェクト

I-8-2 後援・協賛・協力

第13回微量元素の生物地球化学に関する国際会議 (<http://www.icobte2015.org/>) を、後援することとした。平成27年7月12(日)~16日(木)に福岡国際会議場で開催予定。

I-9 部会報告

I-9-1 総務部 (部長, 長屋祐一)

常任幹事会・幹事会の招集, 議事録の作成, 学会事務局への問い合わせへの対応等, 学会運営に関わる通常業務について執り行った。

I-9-2 庶務部 (部長, 豊田陽介; 事務管理委託先, 気候ネットワーク)

- (1) 会員異動の管理, 会費の管理, 印刷費等の支払い等, 学会運営に関する通常業務について, NPO 法人気候ネットワークに業務委託し執り行った。
- (2) 特に, 長期滞納者への督促をし, 納入のない会員を退会扱いとし, 会員数の実態を整理した。
- (3) 『人間と環境』の保存・管理を目的に, PDF ファイルに変換した。不足号は1989年発行の第15巻第1号(通巻29号)を残すのみとなった。

I-9-3 編集部 (部長, 佐藤輝; 委員, 伊藤良栄・上園昌武・歌川学(編集委員会副委員長)・関耕平(編集委員会副委員長)・多羅尾光徳・長屋祐一・西川榮一・的場信敬・除本理史・和田武・渡邊泉)

- (1) 『人間と環境』40巻2号, 3号, 41巻1号を刊行した。第40回研究発表会時に「論文投稿促進セミナー」を開催し, 約30名の参加があった。
- (2) 編集委員会メーリングリストを活用し, 委員会内での報告・議論を行なった。
- (3) 科学技術情報発信・流通総合システム(J-STAGE)のオンラインジャーナルに原著, 研究ノート, 特別報告などの登録作業を進めている。
- (4) インターネットでの原稿公開についての会員からのお問い合わせに答えるために, 情宣部からのご提案に基づき, 投稿規定11番の著作権の取扱いを改訂し, 41巻1号に掲載した。

I-9-4 共同研究部 (部長, 上園昌武; 部員, 伊瀬洋昭・歌川学・権上かおる・坂巻幸雄・瀬戸昌之・畑明郎・本間慎)

プロジェクトの進捗状況 (2015年5月30日現在)

プロジェクト名	廃棄物問題 WG
<設立・完了日>	
<現状>	<活動中>
担当者	○畑明郎・坂巻幸雄
活動状況	2012年度は, 東日本大震災がれきの広域処理問題について, 滋賀県や大阪市等への処理中止申し入れや学習会講師を務めた。『人間と環境』第38巻第3号に提言を寄稿するとともに, 滋賀県と大阪市の事例については, 2013年6月の広島大会で発表した。滋賀県大津市北部の残土埋立地の土壌汚染調査を実施し, 大津市と業者に対策を取らせた。2013年度は, 滋賀県高島市の放射能汚染木くず不法投棄事件に取り組み, 2014年6月の東京農工大の大会で発表するとともに, 2014年7月に出版した拙共著『イタイイタイ病とフクシマ』梧桐書院に所収した。
現状の問題点	特になし
来年度の活動展望	引き続き, 各地の廃棄物問題に取り組んでいく。
日本環境学会に望むこと	共同研究部会予算を凍結せずに執行し, 分配して欲しい。

プロジェクト名	土壌汚染 WG
<設立・完了日>	< 2006 年 12 月幹事会で承認>
<現状>	<活動中>
担当者	○坂巻幸雄・畑明郎・佐藤克春・本間圭吾・松井英介・高島邦子・安田圭奈 江
活動状況	江東区豊洲の東京都中央卸売新市場予定地に関する土壌汚染問題を中核として、各自情報の収集・解析と、メール・ベースでのデータや意見の交換を行った。これらの情報は、市場関係者や市民団体等に対しても、随時提供した。在京メンバーは併せて、都が主催した説明会や、都民有志が提起した土地買収代金の返還訴訟等についても、可能な限り傍聴支援を行った。 この間、メンバーの一人・佐藤克春の著書『市街地土壌汚染問題の政治経済学』が、旬報社から刊行された。
現状の問題点	この間都は除染工事を一方的に進めたが、本来完工後 2 年間の観察期間を経て、再汚染が見られないことを確認しなければならないところを、事実上切れ目なしに建築工事に突入している。当然、諸矛盾も急速に表面化しつつあり、研究者の多面的な支援も強く要請されてきているが、現状では、十分に対応する余力を欠いている。
来年度の活動展望	都に対してデータの開示を強く要求し、その入手と解析に努める。併せて、従来の経過を総括して、問題点の整理と取りまとめを行う。そのためにも関連研究者の登録促進や在京メンバーの補強と、関係諸団体との連携強化を図る。
日本環境学会に望むこと	市場関係者・市民団体間で「共闘会議」が結成されたが、学会側の運営に一層の弾力性を持たせないと、実効的な対応には難しい面がある。試行錯誤を重ねながら随時適切な対応が取れるよう、常任幹事会との密接な連携を切望する。

プロジェクト名	温室効果ガス排出実態分析委員会
<設立・完了日>	< 2007 年 9 月 29 日常任幹事会設置了承済み>
<現状>	<活動中>
担当者	○歌川 学
活動状況	2010 年 4 月に第 2 期報告を行った。 2011 年 3 月の震災・原発事故以降、エネルギー構成が大きく変化、省エネも進展があった。再生可能エネルギー固定価格買取制度施行により再生可能エネルギー電力量にも変化がある。 現在、次回報告を準備している。
現状の問題点	とくになし
来年度の活動展望	データ更新を行うと共に、新しい検討テーマを加えていく。
日本環境学会に望むこと	温室効果ガス削減対策でも、節電・省エネ対策でも、排出実態やエネルギー消費実態把握が重要。学会主催の報告会などをする際には協力可能。

プロジェクト名	東京都日の出町広域処分場周辺環境調査委員会
<設立・完了日>	
<現状>	<活動中>
担当者	○瀬戸昌之・本間 慎・坂巻幸雄

活動状況	日の出ごみ埋め立て処分場・エコセメント化施設，さらに，2011年の福島第一原子力発電所の爆発は東京都日の出町・青梅市の環境にどのような影響を与えているのであろうか。 われわれは，これらの地域の人や市民団体と共に，日の出処分場・エコセメント化施設からの汚染物質と放射性物質の土壌や空間における線量の分布，また，生物への影響などを調べている。たとえば，エコセメント工場の周辺大気から，住民はガンマ線を有意に高い濃度を検出している。さらに，これらの調査の成果を多くの人たちにわかりやすく伝えることにも努力している。
現状の問題点	ごみ問題は何も解決していない。それどころか，震災がれきの焼却処理は新たな汚染をもたらしている。しかしながら，調査や運動にかかわる人や組織が疲弊しその存続が危ぶまれている。
来年度の活動展望	ごみ問題や震災がれきをめぐって，他団体との連携も含めて，この連携の意義を全国的に広げることも展望したい。
日本環境学会に望むこと	日本環境学会は政府が実効性のある「汚染者負担の原則」や「拡大生産者責任」を導入するように取りくんでほしい。

プロジェクト名	福島第一原発事故による放射能汚染問題研究委員会
<設立・完了日>	<2011年6月12日幹事会で承認>
<現状>	<活動中>
担当者	○畑明郎・坂巻幸雄・本間慎・本間圭吾・原田泰ほか約60名
活動状況	ホームページとメーリングリストを開設し，活発な情報交換を行なっている。2011年10月に6名で現地調査を実施し，その成果は『人間と環境』第38巻第1号に掲載するとともに，2012年6月の別府大会シンポジウムで報告した。12月には，本間慎・畑明郎編『福島原発事故の放射能汚染』を10名で執筆分担し，世界思想社から出版した。2013年度は，福島第一原発の汚染水漏れ事故を分析し，2014年6月の東京農工大の大会で発表するとともに，2014年7月に出版した拙共著『イタイイタイ病とフクシマ』梧銅書院に所収した。
現状の問題点	特になし
来年度の活動展望	メーリングリストによる情報交換を進めるとともに，問題分析と政策提言をしていきたい。
日本環境学会に望むこと	共同研究部会予算を凍結せずに執行し，分配して欲しい。

プロジェクト名	再生可能エネルギー研究プロジェクト
<設立・完了日>	<2011年11月3日常任幹事会で承認>
<現状>	<活動中>
担当者	○上園昌武・知足章宏ほか19名
活動状況	研究会メンバーを執筆陣とした『先進例から学ぶ再生可能エネルギーの普及戦略』を2013年3月に出版した。
現状の問題点	2014年度は研究会を開催できなかったため，今後の研究計画を具体化するなどの取組を検討する。
来年度の活動展望	科研費の獲得などで研究費を調達して，更なる研究成果を得るべく活動を展開していきたい。
日本環境学会に望むこと	特になし

プロジェクト名	若手研究活性化プロジェクト
<設立・完了日>	< 2009年7月常任幹事会で承認>
<現状>	<活動中>
担当者	○安田圭奈江ほか8名
活動状況	若手会員間の研究交流を目的とした若手研究者発表大会, および若手研究者交流会の開催を中心に活動している。
現状の問題点	現在, 活動の中心が関西に限られているため, 他地域の若手会員の参加が限られてしまっていること。
来年度の活動展望	来年度も若手研究者発表大会, および若手研究者交流会の開催を予定している。
日本環境学会に望むこと	会員の先生方におかれましては, 周囲の若手研究者に若手研究者発表大会, および若手研究者交流会へのご参加を呼び掛けて頂ければ幸いです。

I-9-5 企画部 (部長, 歌川学; 副部長, 安田圭奈江* #; 部員, 知足章宏*・中村真悟*・西川榮一・大瀧正子*・平岡俊一*・的場信敬*・森家章雄*・和田武* [* , 若手活性化プロジェクト (YAPJ); #, YAPJ 事務局長])

- (1) 会誌 40 巻 2 号 pp.46-48 (2014) に「第 5 回若手研究者発表大会」(2014 年 3 月 5 日, 京都) の開催報告を掲載した (執筆者: 知足章宏)
- (2) 「第 6 回若手研究者発表大会」を開催した (2015 年 3 月 9 日, 大阪市立大学文化交流センター (梅田キャンパス))。研究発表, 3 件; 参加者, 約 14 名。
- (3) 会誌 41 巻 2 号 (2015) に, 「第 6 回若手研究者発表大会」(2015 年 3 月 9 日, 大阪) の開催報告を掲載した (執筆者: 中村真悟)。
- (4) 2014 年 6 月の東京農工大学での大会シンポジウム「再生可能エネルギーと地域発展」の企画を行った。
- (5) 会誌 40 巻 3 号 pp.2-19 (2014) に, 大会シンポジウム「再生可能エネルギーと地域発展」の報告を掲載した。

I-9-6 情宣部 (部長, 大場和久; HP・ML 管理者, 豊田 陽介)

- (1) ニュースレター等の配信用メーリングリスト (info) での情報提供: 会員に対して, 第 41 回研究発表会のお知らせ ([jaes-info:00061] 2015 年 2 月 17 日, [jaes-info:00065] 2015 年 3 月 19 日, [jaes-info:00066] 2015 年 4 月 8 日, [jaes-info:00067] 2015 年 4 月 20 日など), 若手研究者発表大会のお知らせ ([jaes-info:00060] 2015 年 1 月 13 日など), 会長・幹事選挙結果 ([jaes-info:00068] 2015 年 5 月 16 日) などの情報を発信した。Info の現時点での登録数は 356 名 (5 月 14 日現在) である。
- (2) メーリングリスト: 現在, 学会のメーリングリストとして, 会員相互の情報交換用 (jaesML), 幹事会用 (jaesmc), 常任幹事会用 (jaesjo), 事務連絡用 (jimu), ニュースレター等の配信用 (info) を設置・運用している。jaesML の登録者数は 284 名 (5 月 14 日現在) である。
- (3) 2014/4/1~2015/3/31 の学会 Web サイトへのアクセス数は以下の通りだった。
訪問者数 9,057 (2014/4/1~2015/3/31 は 9,776)
ページビュー数 35,524 (2014/4/1~2015/3/31 は 37,425)

I-9-7 国際部: (部長, 的場信敬; 部員, 小堀洋美・和田幸子・歌川学)

- (1) 懸案となっていた英語版ウェブページ作成について, まずは入口となる「設立趣旨」と「日本環境学会とは」のページの英訳を行った。現在, 国際部内で内容の詳細を検討するために, 仮のネイティブチェックを依頼中である。英語版 1 次草稿を作成後, 内容およびその後のプロセス (本格的なネイティブチェックや会員全体への確認作業など) について, 幹事会に検討をお願いする。